



めざす児童像：夢や希望を追い求め、失敗も学びにかえる子

結返し(感謝の心を…)

2月の末日から、石小では至るところで感謝の心が飛び交います。

その壹☆～6年生を送る会～

2月28日、この日は6年生を送る会。1～5年生が6年生にこれまでの感謝を伝える会です。

どうぞ最後まで、ごゆっくり楽しんでください。

代表委員の5年生のあいさつのあと、1年生から順に続いた発表は、歌あり、劇あり、合奏あり、ダンスありとバラエティーにとび、どの学年も実に堂々としています。学級活動の時間や休み時間に練習を重ねてきたのでしょう、子ども達の表情は緊張もあるのですがとても楽しそう。新旧の鼓笛隊の「移杖式」も立派でした。

ずっと雛段（クリスタルホールの階段）から、下級生の発表を、目を細めて見ていた6年生の表情はとても穏やかです。会の終盤に、首にかけてもらった感謝のメダルと縦割り班の子ども達から届いたメッセージ。

ありがとう。後は宜しくね。頑張って！

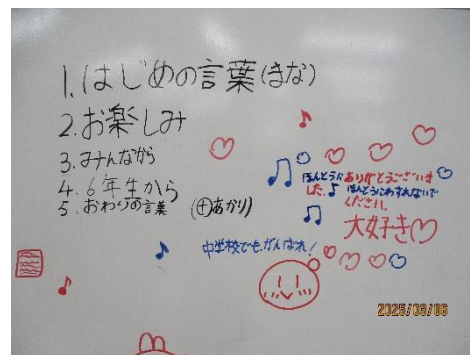
と、お礼を言い、5年生の肩をポンとたたきさげないしぐさはすっかり卒業生です。



その貳☆☆～先生方への感謝の会（謝恩会）～

3月5日には、6年生から先生方への感謝の会。学校の全スタッフが招待され、これまでの思い出話に花が咲き、終始和やかな雰囲気では進みました。クラスごとのクイズやジェスチャーゲームも準備されましたが、懐かしいエピソードを旧担任が発表したり、先生方が無理やりステージに引っ張り出されたりと、教職員参加型のとてもユニークな会となりました。

手作りの招待状、会場の飾り、子ども達のエスコート、どの場面を切り取っても**感謝の心がギュッと詰まった**素敵な時間でした。会が進む中、涙を浮かべる子や泣きじゃくる子も多く、私たちも目頭が熱くなりました。



その参☆☆☆～課外活動部6年生を送る会～

3月5日は課外活動部による6年生を送る会、自転車、合唱、合奏、陸上の4つの部がそれぞれに6年生に感謝を伝えました。どの部も放課後の限られた時間でしたが、セレモニーの中では6年生からの後輩たちへの言葉も準備され、しっかりとバトンを引き継ぐことができました。

「結返し(ゆいげえし)」という言葉。最近では耳にすることも少なくなってきましたので死語に近いのかもしれませんが、大好きな言葉の一つです。「結」を返すこと（いただいた恩を返すこと）を指しますが、正にこの時期の子ども達の活動はそれに当たります。感謝の心を形にして返す。優しさが飛び交うこの季節が私は大好きです。今年度もあと2週間となります。

叱られながら育つ(校長回顧録)

6年生が招待してくれた感謝の会で、小さい頃のエピソードを話す機会をいただきました。話足りなかったの
で、公共の紙面(学校だより)を割いて詳しく伝えます。

時計の針を50年前に巻き戻します。

小学2年生の図工の時間、友達のT君が急な発熱。担任のA先生は、T君を家まで送って行くことになりました。当時は車もありませんでしたし、T君の家は学校のすぐそばということもあったので、先生はT君をひょいっと背負い、

あとはお願いね。

と、言い残して教室を後にしました。授業は、水彩具で絵を描く時間でしたが、しばらくして、ぼくは近くにあった筆洗い用の水桶に足を引っかけしまいました。教室はあっという間に水浸し。もちろんわざとではないのですが、落ち着きがなかったことは確かで、みんな大騒ぎ、雑巾での水取が始まりました。そんな中、タイミングよく!?悪く!?A先生が戻ってきました。教室の惨状を見て、

何これ?、誰ですかやったのは?

みんなが指さす犯人のぼくは、ひどくA先生に叱られました。がっかりしたのと、今度こそは許しちゃいけない...と思ったのかもしれませんが。ランドセルを背負わされ、ロッカーの中や机の中の物を持たされ、すぐに家に帰るよう告げられました。A先生は嫌がるぼくを教室から廊下に引きずり出し、階段を通り玄関まで連れ出しました。途中1年生のO先生が様子を見に来て、

先生、泣いてるじゃないですか、許してあげてください。

と、声をかけてくれたのですが、A先生は耳を傾けながらも、

この子はいつもそうなんです。O先生ほっといてください。

A先生の激しい怒りに、観念するしかないぼくでした。

その後、どうなったかは記憶にありません。自分に都合の悪いことはシャットアウトするよう脳はできているという話を聞いたことがあります、それかも知れません。

ぼくの素行はもちろん急には良くはならずその後も何度となく叱られました。しかし、先生が離任されるときには人目もはばからず大泣きしたことを覚えています。

夏休みには教員住宅にクラス18人を順番で宿泊させ、手料理をごちそうしてくれる先生でした。一緒にワラビ採りに出かけ、馬に追いかけられたこともよい思い出です。

親も忙しく、子どもにかまってなどいられない時代でしたので、学校の先生は半分親代わりだったのかも知れません。だからこそ将来を憂いて本気で叱ってくれたのだと、今になってただただ感謝します。

A先生は今年古希を迎えます。春には、ぼくたちの還暦と先生の古希祝いを兼ねた同級会をする約束になっていて、ちなみにぼくは会の事務局を、前出のT君は会計を担当する予定です。

年末の学校アンケートの自由記述の中に、少数ですが「先生に悪いことは悪いと叱ってほしい。」という意見がありました。

「悪いことをするのは子どもの仕事、それを叱って正すのは教師の仕事。」

初任者の時の、学年主任の言葉を思い出します。

☆☆ようこそ校長室へ☆☆

2月末より、校長室で卒業前の6年生との会食を楽しんでいます。

毎日6~7名の6年生がやってきては、ああでもない、こうでもない話をしながらの時間を過ごしています。

振り返ると、グループでの昼食は、実に2年生の後半依頼です。私も念願の会食で、久しぶりに腹を抱えて笑わせてもらっています。話題の中心は6年間の思い出や残念だったことなどですが、今だから言える内緒の話もありなかなか濃密な時間です。

今週いっぱい続く予定です。

